

仏 壮「 除 夜 会」

十二月二十一日（土）

午前十一時

お勤め（正信

偈）

法 話
引 き 続 き

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

法輪寺前住職隆法が『法味』と題して詠んだ短歌がみつき、これまで7回に渡って会報に連載させて頂きました。実はこの7首連歌となっており、今号に改めて全首を掲載させて頂きます。7首続けてお読み頂き、法味をお味わい頂ければ有り難く存じます。

法 味

いそがしく 走り躍（おど）りて あの時まで
罪を背負いて 落ちてゆくなり ≪流転輪廻≫

いそがしく 走り躍（おど）りて 落ちる身が
南無の一声 弥陀の浄土へ ≪信心正因≫

夢の世に 夢に夢見る 我が夢を
夢さめよとの 親の呼び声 ≪大悲招喚≫

闇の世に 闇とも知らず 迷へるを
弥陀の光りに 遇うぞうれしき ≪光明摂取≫

他力とは 弥陀の誓いの そのみ名を
あたえて救う 慈悲のみ力 ≪他力本願≫

み仏の 鏡（かがみ）にうつる わがこころ
はずかしうれし ご恩とうとし ≪御恩報謝≫

弥陀仏の み国に行きし 父母（ちちは）の
み跡したいて 我れも行くなり ≪俱会一处≫

題材法話

浄土真宗のみ教え ⑫ 「如来の呼び声」

(2)

*拝読「浄土真宗のみ教え」の16頁をお読み下さい。

「南無阿弥陀仏」と称えるお念仏は、私達を招き喚ぶための言葉（本願招喚の勅命）だったのびす。まさに「如来の呼び声」です。

○信心正因

一般的な宗教では、私の方から神仏に向かつて助けたまえ」とお願いを叶えたまえ」とお願いをします。

ところが阿弥陀様といふさまは、「すべてをいさめる方から働きかけ、下されるのです。働きかけ

者を他力と呼ぶ。大きな違いがある。



さる「のではなく、私達が仏と成るすべての仕組みを阿弥陀さんの方で用意して下さっている」のです。

そしてそのことを「そのまま聞かせて頂く。」これが浄土真宗における「信心」であり、私達がく浄土に生まれさせて頂くことのできる「正因」です。（正しい要因）となるの

○「たのむ」ということ

このように南無阿弥陀仏の救いは百パーセント絶対他力なのですが、蓮如上人の「領解文」のなかに、「・・・たのむ一念のとき、往生一定御たすけ治定と存じ・・・」とあるため、浄土真宗で

「たのむ」が必す。これはこの「たのむ」が多

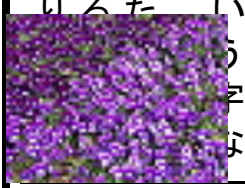


に使う「たのむ」は、この「頼む」という漢字で、この字は「お願いをする」「意味です。」

「一方「憑む」という字は「よりかかる」という意味です。」という意

が遊びに出かけようとす出る孫に「ついてきて」とたのむ。これはお願いをするので

「念の蓮如上人が仰る」阿弥陀様に



様に、すべてをお任せし「よう」と思い立つ時に自

す。称名が口からこぼれ出ま

立つた時に既に救いは成

阿彌陀仏」。まさにな